

令和元年度（平成31年度）学校評価（分掌等）

本年度の目標達成度 評価基準

- 1 分掌  
総務・教務・生徒指導・進路指導・保健・特別活動  
教育相談・研修
- 2 委員会  
教育課程・キャリア教育推進・図書情報・修学旅行検討  
支援
- 3 学年部  
1年・2年・3年・4年
- 4 教科  
国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・英語  
家庭・情報・商業

- A 達成
- B ほぼ達成
- C やや不十分
- D 不十分

令和元年度（平成31年度） 総務部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 P T A活動の充実と開かれた学校づくりを目指す。 2 教育振興会と連携し教育環境の充実を目指す。 3 危機管理体制の強化を目指す。 4 より円滑に各分掌間と連携する。 <手立て> 1 P T Aへの積極的な情報提供を行い学校行事等への参加を促す。 2 同窓生への情報提供と若い世代の振興会への参加を促す。 3 防災情報の収集、提供と防災訓練の充実を図る。 4 各分掌との連絡調整を密にし、式、行事、職員会議等を円滑に企画、実施する。	P
実施状況・達成状況	1 関係分掌の協力により情報を提供でき、学校行事への参加を促せた。 2 積極的な提供はできなかった。 3 各分掌の協力により防災マニュアルを更新し、また、緊張感のある避難訓練を行うことができた。 4 各分掌の協力によりスムーズに実施できた。	D
成果と課題	1 保護者間の積極的な関係づくりにも助けられたが、一部の学年に偏る傾向もある。良好な関係の輪をさらに広げたい。 2 方法等を模索し、次年度の実施に向けて計画したい。 3 被害状況の設定や避難経路を変えることで効果的な避難訓練ができた。 4 各行事や職員会議までの1つの流れが構築されている。	評価 B (A~Dで)
次年度への提言	保護者の他、同窓生への情報提供を模索し、P T A活動や振興会組織の活性化につなげたい。また、計画的に防災マニュアルを更新していく他、様々な災害を想定した避難訓練や防災教育の機会をつくりたい。	A

令和元年度（平成31年度） 教務部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 成績処理をより効率的に行う 2 教務内規の見直し 3 指導要録の電子化の運用と活用 4 新教育課程の準備 <手立て> 1 成績処理様式の見直し 2 卒業までの流れの再確認、及び必要な内規の改訂 3 電子化された指導要録のデータを調査書などへ活用する 4 教育課程検討委員会と連携	P
実施状況・達成状況	1 成績処理様式の見直しを行った。 2 教務内規の改訂を行った。 3 電子化された指導要録のデータを用いて、進学、就職の調査書を作成できた。 4 教育課程検討委員会と連携し、令和4年度入学生の教育課程案を作成した。	D
成果と課題	1 成績処理に関する改善点をあげた。 2 教務内規の改訂を行ったが、新指導要領実施に向けて、内規の改訂を準備していく必要を感じた。 3 調査書の業者による最終的な調整が直前となり、不安だった。次期指導要録改定時には、業者とより綿密に連携を取りたい。 4 令和4年度入学生の教育課程案がより良いものになるように連携して改善を加えていきたい。	評価 A (A~Dで)
次年度への提言	○ 成績処理に関して必要な改善を行う ○ 令和4年度からの新指導要領との整合性を確認し、評価に関する改訂案を作成する ○ 教育課程検討委員会との連携	A

令和元年度（平成31年度） 生徒指導部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 「定時の心得」の充実、共通理解と生徒の自己管理意識の醸成を図る。 2 問題行動の未然防止と交通事故や不審者被害の未然防止に向けた交通安全指導の充実を図る。 3 生徒と学級を支援する生徒指導の実践と充実を図る。 <手立て> 1 定時の心得の充実を図り、自律を促し自立を目指した指導をする。 2 各種生徒指導講話の充実を図る。事故対応カードの作成と活用。 3 全職員が全生徒ひとりひとりの指導に関わり、生徒情報を交換し共通理解を図る。	P
実施状況・達成状況	1 「定時の心得」の確認を年度初めに行ったが、集会や儀式の際に何度も生徒と確認して自律を促す指導をしていきたい。 2 外部講師を招いての生徒指導部講話で問題行動の未然防止に努めた。また事故対応カードを作成して生徒に常に携帯するよう指導した。自転車走行の交通事故は少なからず起こっているので引き続き安全意識を喚起したい。 3 スクールカウンセラーの活用は養護教諭や担任を通じての相談体制が機能している。カウンセリング需要は引き続き多いと考えられる。また全職員が一丸となって生徒指導の充実に取り組んでいる。	D
成果と課題	1 「定時の心得」の内容について、生徒の進路目標に即した指導ができるように改定していきたい。 2 外部講師からの講話は専門的な知識をわかりやすく説明していただけるので、今後も継続して実施していきたい。 3 授業や行事などさまざまな機会を通して、全職員でそれぞれの生徒の抱えている問題について意見交換がされ、生徒指導に生かされている。	評価 C B (A~D)
次年度への提言	多様な特徴を有する生徒たちを支援するという基本的な考え方をもとに注意深く観察しながら指導したい。 「定時の心得」については、生徒会と連携協議しながら内容の充実を図りたい。また、問題行動、いじめ、暴力行為、飲酒喫煙、交通事故防止に向けては、わかりやすい指導、一貫性のある指導を心がけたい。 生徒指導について、共通の認識、共通の目標をもって指導にあたるよう職員や保護者とのコミュニケーションを積極的に図り、情報を共有しながら連携を強化したい。	A

令和元年度（平成31年度） 進路指導部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 卒業予定者の進路希望の実現 2 3～4年間を通じた計画的なキャリア教育の推進 3 家庭や関係機関と連携した効果的な進路指導 4 進路情報の整理と進路関係行事の効果的な実施 <手立て> 1 進路目標を具体化させ、実現に向けて個々の生徒に合わせた支援を行う。 2 学年部と連携を深め、計画的な進路指導を行う。 3 保護者やジョブサポーターと情報を共有し、協力して進路指導を行う。 4 進路関係行事の目的や意義を再確認し、職場定着支援員の協力を得て、生徒の進路意識の涵養や情報提供を効果的に行う。	P
実施状況・達成状況	1 卒業予定者のほとんどは10月末までに進路が決まった。引き続き未決定者に対する指導を継続したい。 2 学年まかせではなく、進路指導部として進捗状況を確認し協力しながら進路指導を行った。面接練習は全職員の協力を得た。 3 保護者面談や電話での確認を頻繁に行い、面談では必要に応じて職場定着支援員に同席してもらうことで保護者の理解を得た。 4 高校教育課やハローワーク主催の進路関係行事の他に、校内で「進路体験を語る会」を実施したり、職場定着支援員に講話を依頼したりすることで、生徒の進路意識の高揚を図った。	D
成果と課題	1 進路未決定者に対しては、職場定着支援員やハローワークと連携を深めて、決定していきたい。 2 日常的に校務センター内で生徒の進路についての話題を共有する今のやり方は、職員数の少ない本校の実情に合っていると考える。 3 保護者と連携して進路活動を進めるうえで、苦勞する場面があったが、職場定着支援員という専門的な立場からの意見は、保護者の理解を得るためには大変効果的であった。 4 今年度初めて実施した「進路体験を語る会」は、先輩の生の声を後輩に伝えることができ、有意義な企画であった。	評価 C B (A~D)
次年度への提言	○ 進路活動の手引き、面接マニュアル等の整備 ○ 保護者の協力を得るための工夫 ○ 「進路体験を語る会」の継続実施 ○ 選考会議のあり方 ○ インターンシップの計画と実施	A

令和元年度（平成31年度） 保健部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 生徒の健康に関する意識を高める 2 基本的な生活習慣の確立を促す 3 思いやりの気持ちを育む <手立て> 1 ストレスマネジメントやレジリエンス等、心の健康に関する情報を計画的・継続的に発信する。 2 生活習慣に関する保健指導を、個に合った内容や方法で実施する。 3 総合的な探究の時間、LHRと連携し、自己理解や他者理解を促す活動を継続的に実施する。	P
実施状況・達成状況	1 ほけんだよりや個別指導で心身の健康に関する情報を発信した。ストレスマネジメントについては、1年生の総合的な探究の時間で実施しているSSTに組み込んだ。 2 生活習慣に関するアンケートを実施し、結果をほけんだよりで提供した他、学校保健委員会で話題にし、学校医や学校職員で協議した。 3 1年生の総合的な探究の時間のSSTとLHRのSGEの資料を提供し、自己理解や他者理解を促す活動を支援した。また、保健講話でデートDV予防講座を実施し、人間関係の在り方を学んだ。	D
成果と課題	1 心身の健康状態と生活習慣の関係が意識できていない生徒が多い。また、ゲームやスマホの長時間使用による心身の不調の訴えが増えてきているように感じる。 2 ゲームやスマホの長時間利用に対する指導については、生徒指導部と役割分担をして実施する必要がある。 3 SSTやSGEを継続的に実施し、自己理解や他者理解を促すとともに、不適応、不登校予防の取組につなげたい。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ 生活習慣に関するアンケート（ライフスタイル調査）と健康診断の結果から生徒の健康状況を把握し、生徒に必要な健康情報を計画的、継続的に発信する。 ○ スマホやゲームの使用について、生徒が自分のこととして考え、適切な行動を選択できるような指導の工夫が必要。	A

令和元年度（平成31年度） 特別活動部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 生徒が主体となって生徒会行事を運営する。 2 持続可能な特別活動とするため、各行事の見直しを図る。 <手立て> 1 行事の企画立案など、可能な範囲で生徒の活躍の機会を作る。 2 予算案の精査と事業規模の再考を行い、学校規模に合った行事を実行する。	P
実施状況・達成状況	1 なべっこ、球技大会では生徒会を中心に企画立案するように指導した。なべっこでは生徒会企画のレクリエーションについて、運営を生徒会に任せた。体験入学の学校説明等を生徒会に協力してもらった。 2 部活動運営費をはじめ、予算配分を例年通りとせず、活動予定と大まかな使用予定を確認した上での予算割り当てをおこなった。	D
成果と課題	1 球技大会の学年を越えたペア組みや、なべっこの移動方法の変更によって生徒のコミュニケーション能力の育成にも寄与できた。生徒会の面々にとっては企画運営する楽しさと大変さを体感してくれたと感じている。一方で、生徒会誌についてはほぼ教員主導になってしまった。 2 各種大会・学校行事の移動方法、購入物品の確認を行い、予算の適正化を図ることができた。軟式野球部の活動が再開した際、卓球部が全国大会に出た際の予算立てについてが課題として残っている。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ なべっこの移動方法について、電車移動を継続する。 ○ 異学年での交流機会を増やす。 ○ 全国大会出場時の予算立てを計画する。 ○ 定期的な生活スキルトレーニングを実施する。	A

令和元年度（平成31年度） 教育相談部 本荘高等学校定時制課程		
今年度重点目標	1 生徒の自己理解を促す活動の充実 2 相談活動の充実 3 生徒理解の研修を行う	P
	<手立て> 1 LHR等で、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングを活用するための資料等を準備する。 2 保護者との関係づくりのため、保護者面談週間を年に2回設定する。（1回目：7月23日～ 2回目：1月20日～） 3 高等学校特別支援隊等と連携し、事例検討を複数回実施する。	
実施状況・達成状況	1 構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングを実施するための資料を数回分準備した。担任の先生が中心になり資料の準備、授業を実施した。 2 夏季休業中、冬期休業前後に保護者面談週間を設定し、全保護者と担任等が面談した。 3 ゆり支援学校の教育専門監と連携し、事例検討会を実施した。また、職員会議等で研修報告を行い、職員への情報提供に努めた。	D
成果と課題	1 年間を通した資料の作成が課題。今年度のものを蓄積していき、来年度以降も改良していきたい。 2 担任の先生の負担は大きかったが、全保護者と面談でき、保護者との関係作りができてよかった。 3 研修内容の伝達、資料の配付を工夫した。また、事例検討を通して生徒理解が深まった。	評価 C B (A～Dで)
	○ 構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングに関する資料の蓄積、チームとしての取組の重点等の検討。 ○ 事例検討の他、教育相談に関する職員研修を企画し、生徒理解の促進と生徒が相談しやすい環境づくり。	A

令和元年度（平成31年度） 研修部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 校内研修の充実を図る。 2 授業改善に向けた情報発信に努める。	P
	<手立て> 1 授業参観、授業研究会・研究授業、校内研修会を実施する。 2 授業アンケートの実施。研修便りの発行。	
実施状況・達成状況	1 年2回の授業参観の実施。 2 年2回の授業アンケートの実施。研修便りの発行。	D
成果と課題	1 年2回の授業参観では、のべ12人の先生方の参観があった。生徒の特性の把握や他教科の授業参観を通して、授業改善を図った。また、4月と11月に実施したが、参観できる先生が少なかったことから、実施時期の検討が必要だと感じた。 2 年2回の授業アンケートを実施、集計した。集計後には、各教科から振り返りをしてもらい、授業改善に繋がられた。また、話題提供として研修便りを発行した。	評価 C B (A～Dで)
	○ 校内研修の充実。授業研究会・研究授業、校内研修会の実施。 ○ 授業参観週間の時期設定。前期の実施時期として、5月を検討。 ○ 授業アンケートの再構成。（表現の見直し）	A

令和元年度（平成31年度） 教育課程検討委員会 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 新教育課程の準備 2 現教育課程の必要な改定  <手立て> 1 令和4年度からの年次進行に向けて検討するべき点を洗い出す。 2 生徒の進路実現に役立つ教育課程の作成を目指す。	P
実施状況・達成状況	1 職員配置による教科・科目の授業時間のアンバランスがある。 2 令和2年度入学生の教育課程を作成。	D
成果と課題	1 授業時数のアンバランス解消することと、進路実現に向けて、学校設定教科・科目を設定した令和4年度入学生の教育課程案を作成した。 2 令和2年度入学生の教育課程を作成。選択として、0校時に総合的な学習の時間を設定した。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ 作成した令和4年度入学生の教育課程案に必要改善を加える ○ 可能などころで令和4年度入学生の教育課程案を反映させ、令和3年度入学生の教育課程作成する	A

令和元年度（平成31年度） キャリア教育推進委員会 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 キャリア教育全体計画・年間指導計画に基づいた、自ら学び、自ら考える力を身につけさせる教育 2 キャリア形成を意識した進路学習の実施 3 学校生活全体を通じたキャリア教育の実践  <手立て> 1 面談や観察、情報交換などにより生徒理解を深め、生徒が自分に自信を持てるような活躍の場をできるだけ多く与える。 2 卒業後の進路を早期に意識させ、自ら課題をみつけ努力できるような支援を行う。 3 学校生活全体を通して、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力を身につけさせる。	P
実施状況・達成状況	1 年2回の面談週間では、副担任や教科担任、養護教諭等も面談を行い、生徒理解を深めた。学校行事や生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動を促した。 2 卒業学年だけでなく、1年・2年でもLHRや総学・総探で進路学習を実施した。2年生でインターンシップ、1年生で職場見学を実施した。 3 授業や休み時間、部活動など、日常生活のあらゆる場面で、全職員がソーシャルスキルやコミュニケーション能力を意識した指導を行っている。1年生では、ソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施した。	D
成果と課題	1 担任以外が積極的に生徒と面談し、情報交換ができています。 2 1年生と2年生の進路行事は進路意識の高揚という点で効果的であった。2年生のインターンシップは来年度から夏季休業中の実施となるので、今後詳細を計画したい。 3 1年生で実施したソーシャルスキルトレーニングは、学年主導で実施し、ある程度の効果があった。成果を全職員で共有し、来年度へつなげたい。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ 「キャリア・パスポート」の活用 ○ 「キャリア教育」≠「進路指導」、「キャリア教育の要は特別活動」という考え方の浸透 ○ ソーシャルスキルトレーニングの理解と実施	A

令和元年度（平成31年度） 図書情報委員会 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 校務センター内のネットワーク環境の安定化を図る。 2 全日制と連携し、定時制のHPの一新と円滑な更新を行う。 3 各分掌と連携をとりながらICT機器を管理・運用をする。	P
	<手立て> 1 LAN接続ハードディスクの整備と管理を行う。 2 全定共有フォルダの活用と、HP運用委員会と連携した定時制HPの一新、管理・運営を行う。 3 各講義でのモニターやプロジェクターの等の設置や使用状況の確認、管理を行う。	
実施状況・達成状況	1 LAN接続ハードディスクの整備と管理を行った。 2 定時制HPを一新した。HP運用委員会と連携し、HPの管理・運営体制を整えた。 3 ICT機器使用簿を作成し、ICT機器の管理・運用の効率化を図った。 ・今年度は秋田県教育関係職員互助会からの寄贈図書があったので定時制に新刊図書コーナーを設立することができた。	D
成果と課題	1 校務センター内のネットワークに大きなトラブルなく、運用することができた。 2 定時制HPを一新し、行事や時期に合わせてHPの更新を行うことができた。 3 ICT機器使用簿を作成することにより、機器の故障や不備に迅速に対応することができ、細かい管理をする事ができた。 ・ 図書の管理の仕方、利用促進をさらに工夫する。	評価 B (A~Dで)
	○ 校務センター内のネットワーク環境の安定化を図る。 ○ 一新した定時制HPの円滑な更新を行う。 ○ 各分掌と連携をとりながらICT機器の管理・運用をする。ICT機器の活用の推進を図る。 ○ 図書の管理の工夫、生徒・保護者への情報発信	A

令和元年度（平成31年度） 修学旅行検討委員会 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 安心、安全な修学旅行の実現。 2 自国の文化と伝統に対する理解を深めると共に、主体性を高め様々な感動と成就感を得られる修学旅行の実現を目指す。 <手立て> 1 代理店と連携し予算や日程、行程に無理のない計画を立案すると共に保護者、生徒への事前調査と説明会の充実を図る。 2 事前学習の充実と係活動への取り組みを促し主体性を育む。	P
	1 生徒、保護者の意向確認と旅行代理店の見積もりをもとに目的地を絞り込み、旅程の基本案作成に取り組んでいる。 2 目的意識をもって積極的に取り組んでいる。	D
実施状況・達成状況	1 旅行代理店の選定を急ぎ、旅程と経費を確定したい。 2 計画的に準備を進めたい。	評価 B (A~Dで)
次年度への提言	安心安全で有意義な修学旅行の実現を目指す。また、自国への理解と仲間と協力することの大切さを学ばせたい。	A

令和元年度（平成31年度） 支援委員会 本荘高等学校定時制課程		
今年度重点目標	1 支援委員会の定期的な開催 2 支援学校との交流の継続 3 チームとしての支援の充実 ----- <手立て> 1 SENチェックリストを活用して個別の指導計画を作成し、支援委員会で検討、共通理解を図る。 2 支援学校のワックス作業への参加、学校祭での交流を継続。 3 外部機関と連携し事例検討等を実施→チーム支援の蓄積につなげる。	P
実施状況・達成状況	1 新入生は授業の様子調べと同時にSENチェックリストを実施し、個別の指導計画作成に活かすことができた。 2 ゆり支援学校との交流では、教室のワックスがけとゆり支援フェスティバルに、本校生徒2名が参加した。 3 ゆり支援学校教育専門監、地域支援部主任に御指導いただき、事例検討会を実施した。全職員が参加し、研修の機会となった。生徒のアルバイト先を訪問し、情報共有を行い、指導に活かした。	D
成果と課題	1 新入生の実態把握については、全職員で行い、情報共有することができ、支援につながりやすくなった。 2 ゆり支援学校との交流は継続できているが、参加人数や参加の形態を工夫したい。 3 事例検討会を重ね、チームとしての支援が少しずつ蓄積されてきた。今後も継続し、職員の対応力向上につなげたい。	評価 C A (A~Dで)
次年度への提言	○ 生徒理解の研修の継続 ○ ゆり支援学校との交流の継続 ○ アルバイト先訪問を継続して情報を共有し、連携して生徒の支援を行う	A

令和元年度（平成31年度） 1年部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立を図り、自律を目指して学校生活を過ごさせる。 2 集団のなかで、ともに生きるための豊かな人間性を身につける。 <手立て> 1 口頭での指導の他にも、個人面談や保護者面談などを行い、機を逃さずに指導する。 2 LHR、総合的な探究の時間、学校行事などを通じてクラスの団結力を高める。	P
実施状況・達成状況	1 夏季休業と冬季休業にそれぞれ保護者面談を実施した。保護者も学校での様子が気になっている様子で積極的に面談に臨んでいただいた。始業前や放課後のちょっとした時間に生徒にも声がけをしてわずかな変化も見逃さないように心がけた。 2 総合的な探究の時間では主に職業研究や課題研究に向けた自分の興味関心に目を向けさせた。また、総合的な探究の時間だけでなくLHRでのソーシャルスキルトレーニングでも自分の意見だけでなく他人の意見も聞き、それぞれの考えを深めさせることができた。	D
成果と課題	1 若干、遅刻が連続してしまう生徒がいるが、生活習慣が乱れて欠席が続いてしまう生徒はいなかった。アルバイトをしている生徒も極力、学校生活に影響のないように心がけて働学一体を心がけている姿が見られた。 2 それぞれ、さまざまな事情を抱える生徒一人一人に対応して指導することができた。また、様々な場面で生徒同士も思いやりの心をもってそれぞれの生徒に対応してくれている。	評価 C B (A~D)
次年度への提言	思いやりの心を持っている生徒が多いが、自分勝手な言動をして周りを不快にしまう生徒がいたり、自分のことで精一杯で他人のことが見えていない生徒もいる。今後も、集団のなかで、ともに生きるための豊かな人間性を身につけることを目標としてクラス経営をしていきたい。また、それぞれの進路目標を明確にし、進路目標達成のために頑張るべきことを理解させていきたい。	A

令和元年度（平成31年度） 2年部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 円滑な人間関係構築を目指して自他を理解する力を身につける。 2 活字メディアを活用して時事を考察し、自身の考えや意見を表現する力を高める。 3 進路目標の設定と進路活動計画の立案に取り組む。 <手立て> 1 アルバイトやボランティア活動に継続的に挑戦して自己理解を深めながら多様な価値観にも触れ、他者への共感と共生する力を身につける。 2 新聞等の活字媒体に習慣的に触れながら国内外の様々な情報を収集し意見文をまとめたり意見交換したり討論の経験を積む。 3 職場定着支援員と連携しながら自己の適性を知り、また進路決定に必要な情報収集力と取捨選択の力を高める。	P
実施状況・達成状況	1 互いの特徴や優れる点、苦手だと思われる点を評価しあい自他の理解を深める取り組みを始めた。また、アルバイト従事者は8割に達した。 2 数種類の新聞を活用して時事を把握し、意見交換や意見文の作成に取り組ませた。 3 自身の進路決定のための将来設計の必要性を理解し、情報収集を始めた。	D
成果と課題	1 興味関心を示し、自他を客観的に評価しあうことができた。また、アルバイトへ積極的に取り組むものの、生活のリズムを崩す場合もあり特に注意が必要だった。 2 面接試験や作文・小論文対策を念頭に意見交換や意見文の作成に取り組んだが、まだまだ十分とは言えない。 3 先輩たちの体験発表が良い刺激となり、情報収集のきっかけとなった。	評価 C B (A~D)
次年度への提言	○ 次年度も継続したい。また、計画的に無理のないアルバイトの実施とボランティア活動への積極的な参加を促したい。 ○ 自身の考えを簡潔に発表したり、一定時間内に意見文の作成ができるよう継続して取り組みたい。 ○ 支援員と積極的に関わりながら進路実現を目指したい。	A

令和元年度（平成31年度） 3年部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 3年修業履修者全員の進路実現 2 4年修業履修者全員の進級と進路実現に向けての準備 3 社会で通用するマナーや生活習慣の獲得	P
	<手立て> 1 生徒との日常的な対話や保護者との面談を通じて生徒理解に努め、進路実現に向けて個々の生徒に合わせた支援を行う。 2 欠席しないで登校し、働きながら学ぶことの意義を伝える。 3 学校生活全体を通して、あいさつやマナー、基本的な生活習慣の指導を継続して根気よく行う。	
実施状況・達成状況	1 担任・副担任・職場定着支援員との面談を何度も行い、個々の生徒に合わせた支援を行うことができた。LHRや総学だけでなく、日常的に短時間でも生徒と話をするようにした。 2 欠席や遅刻・早退については、何度も話をし、連絡がない場合はこちらから本人に電話するなどした。担任だけでなく副担任からも声かけや電話連絡を行い、粘り強く指導した。 3 日常の様々な場面で、あいさつやマナー、基本的な生活習慣の指導を行ってきた。SHR・LHR・総学は常に担任と副担任の2人体制で行い、身の回りの整理整頓や提出物等について細かく声かけをした。	D
成果と課題	1 1月末の時点で、ほとんどの進路が決定している。残る生徒への指導も継続したい。 2 依然として欠席・遅刻が多い生徒もいるが、保護者からの協力が得られた結果、11月から大きく改善した生徒もいる。 3 基本的な生活習慣やマナーは少しずつ身につけているが、卒業又は最終学年への進級を前にしていることを考え、引き続き粘り強く指導していきたい。	評価 B (A～Dで)
	○ 欠席・遅刻防止の指導の継続。 ○ 保護者の協力を得るための工夫。 ○ マナーや基本的な生活習慣を身につけさせるための、全校での取り組み。	A

令和元年度（平成31年度） 4年部 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 社会人としての生活を見据え、必要な知識・生活習慣の定着を目指す。 2 進路目標の達成を目指す。 3 自ら学ぶ意欲の向上を図る。	P
	<手立て> 1 保護者との連携を図りながら生活リズムを整え、体調管理に努めさせる。 2 進路目標を早期に明確化し、保護者と連携を取りながら計画的に取り組む。 3 検定試験等に挑戦させ、学ぶ姿勢を養う。	
実施状況・達成状況	1 面談等を通して保護者と連携し、体調管理に努めさせた。その結果、昨年度に比べて欠席日数を大幅に減らすことができた。その反面、遅刻が増加した。 2 7月中に保護者面談を行い、その意向を確認した上で応募先企業を絞らせようとした。就職未内定者への指導も継続したい。 3 検定試験に挑戦させることはできなかったが、各考査で欠点を取るようなことは無くなった。	D
成果と課題	1 昨年度よりも体調管理に気をつけ、簡単に欠席しないようになったと思う。遅刻も減らしたかったが、本人に遅刻のデメリットを実感させることができず、思うように改善できなかった点が課題である。 2 面談等を通して8月中に応募先を決定できた生徒はスムーズに内定を得ることができた。一方、決定が遅れた生徒についてはその後も苦戦した。早期の応募先の決定が課題である。また、在学中に自動車免許取得ができない生徒への指導も課題として挙げられる。	評価 B (A～Dで)
	○ 卒業後の生活を具体的に踏まえた上で、生活習慣やマナーの改善を図る。 ○ 応募先の早期決定を図る。自動車免許取得の重要性を周知する。	A

令和元年度（平成31年度） 国語科 本荘高等学校定時制課程		
今年度重点目標	1 社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。 2 言語活動を充実させ、文章読解力・自己表現力を向上させる。 3 新聞記事や評論教材を用い、様々な視点を考え客観的な意見を持たせる。 ----- <手立て> 1 授業において国語辞典、漢和辞典の積極的な活用をさせ、振り返りで定着を確認する。 2 話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力をつけさせる。 3 キャリア教育に関連した新聞記事や参考図書の分析に取り組ませる。	P
実施状況・達成状況	1 国語辞典を積極的に活用する機会を多く設定した。また漢和辞典についても音訓索引、部首索引、総画索引の調べ方を指導して自ら疑問点を調べる練習をした。 2 自分の意見を書くことはできても、なかなか人前で発表することが難しい生徒もいる。教師の発問に対しても、単語で回答する機会が多く指導に苦心している。 3 新聞ワークシートを活用して、身の回りの諸問題、最近の時事問題について考える機会を多く用いた。	D
成果と課題	1 生徒の授業の理解度、進度の個人差が大きくチームティーチングの利点を生かした授業もできたが、活用しきれなかった場面が多くあった。 2 自分の考えを人前で発表することは苦手でも、小説のロールプレイなどでは積極的に取り組み、登場人物の台詞回しを自分なりに考えてやる姿も見られた。意見交換の場面を設定する工夫をしていきたい。 3 教科書の内容を中心に時事問題へと話題を広げるようにして授業を展開した。それぞれ興味関心を持って授業に取り組んでいる様子が見られた。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	基本的な学力が不足している生徒について、個別に対応する必要があると感じている。チームティーチングで実施できる授業はサブとなる教員の働きかけが児童生徒の補助や管理だけに終始しないように指導案をしっかりと作成して授業に臨みたい。	A

令和元年度（平成31年度） 地歴・公民科 本荘高等学校定時制課程		
今年度重点目標	1 授業内での理解度を深めるための方策を工夫しながら実践していく。 2 現状の学習環境の中で補助教材や地図を有効に活用し、学力の定着を図る。 3 時事問題の学習を通して現代の社会情勢に目を向けさせ、物事を幅広く考える力を身につけさせる。 ----- <手立て> 1 作業を取り入れた授業の展開や、小テスト等の実施により、授業内容の定着を図る。 2 積極的にICTを活用し、最新の情報を生徒に提供できるように心がける。 3 就職・進学試験も視野に入れ、考える力・自分の意見を述べる力の育成に努める。	P
実施状況・達成状況	1 習熟度に応じた学習プリントの作成。個人ホワイトボードを使用した意見交換や調べ学習など課題解決的な要素を取り入れた授業づくりを行った。 2 補助教材をテレビやプロジェクターで提示した。タブレットPCを活用して思考を深め、考察や意見を共有した。地図を掲示して、諸地域への関心を高めた。 3 10月に選挙啓発出前講座で模擬選挙を実施した。長期休業中の課題で、時事問題や一般教養を扱った。	D
成果と課題	1 授業と日常生活の関わりが理解しやすい教材を選ぶことで、学習への関心が高まった。 2 ICTを活用することで生徒に興味関心を持たせることができた。資料を投影することで、生徒が自発的に発言するようになった。 3 選挙啓発出前講座では有権者としての自覚を高めることができた。時事問題を進学・就職試験に繋げることができた。	評価 C A (A~Dで)
次年度への提言	○ 習熟度に応じた授業の展開。授業内で学力の定着が図れるように授業改善を行う。また、自分の考えを持ち、発表したり、学び合う場を持つように引き続き工夫をする。 ○ ICTを活用した教材の提示。興味関心を高めたり、意見共有などに使用することで、学習への理解を深められるようにする。	A

令和元年度（平成31年度） 数学科 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 望ましい学習態度を育む 2 基礎的・基本的な学力の定着を図る 3 数学的思考力を育む  <手立て> 1 必要に応じて、ノート、プリントを定期的にチェックする 2 習熟度に応じた課題と授業形態を工夫する 3 理解度に応じて、文章題を工夫する	P
実施状況・達成状況	1 定期考査時にはプリントファイルのチェックを行った。 2 1年、2年においては、内容の説明などは合同で行い、演習問題に取り組むときには必要に応じて教室を分けて授業を行った。 3 3年、4年に対しては、細かくステップを刻んで文章題に取り組みさせた。また、多くの学年で定期考査の出題では思考力を見ることの出題の問題を穴埋め形式で出題をした。	D
成果と課題	1 多くの生徒はしっかり取り組み、活動を評価できた。しかし、中にはなかなか取り組もうとしない生徒もいた。 2 習熟度に差がある生徒に対して、標準・基礎を完全に別クラスにするのではなく、T Tを利用した学習で習熟度の差に対応することができた。 3 文章題の学習は必要であることを再確認できた。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ 習熟度の差の大きいクラスの指導の工夫 (到達度の異なる授業のあり方)  ○ 文章題を日常の課題の中に少しずつ取り入れる (同じ問題でも意図的に違う表現をする)	A

令和元年度（平成31年度） 理科 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 科学への興味・関心を持たせる。 2 科学的に考え、表現する習慣をつけさせる。  <手立て> 1 観察・実験の機会を充実させる。時事などの話題を取り入れる。 2 身近な現象や観察したことについて生徒どうしの意見交換の機会を設ける。	P
実施状況・達成状況	1 微生物の観察、ろ過や蒸溜、炎色反応や沈殿反応による物質の同定、岩石標本の観察、分光器の作成、DNA模型の作製等の観察・実験を行った。また、新聞記事を紹介したりインターネット上の各種映像資料を用いて興味・関心を引き出そうとした。 2 観察・実験後の考察時も含め、意見交換の機会を設けるようにした。	D
成果と課題	1 各種実験や視聴覚教材により興味・関心を持たせることができた。今後も実験観察や視聴覚教材を積極的に用いていきたい。 2 意見交換の機会を設けたが、基礎的な知識や体験的な知識が不足しているため考えたり適切に表現したりすることに困難を感じている生徒も見られた。	評価 C A (A~Dで)
次年度への提言	○ 体験的な知識等が不足している生徒が多いため、実験観察や視聴覚教材を今後も積極的に用いて、興味関心を高めつつ、考えさせたり、表現させたり等の活動を取り入れる。  ○ 表現方法を例示したりICT機器を用いたりして生徒がより表現しやすいような工夫を行う。	A

令和元年度（平成31年度） 保健体育科 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 運動を楽しみ積極的、継続的に活動できる学習環境の整備充実と継続的な授業改善に取り組む。 2 生徒自ら授業を組み立て学ぶという意識をもって、体力や健康の維持増進を目指す。 3 自己評価の習慣を身につける <手立て> 1 限定的な施設や用具の他、少人数でも積極的かつ有意義に活動できるよう工夫する。 2 積極的に周囲とのコミュニケーションを図り、自他の理解を深める。 3 個人学習ノートの継続的活用。	P
実施状況・達成状況	1 利用可能な用具や施設は限定的だが、積極的に種目を選択して継続的に楽しみながら学ぶ様子が見られた。 2 協力し合う様子が見られ、技術レベルや体力の向上も見られた。 3 ほぼすべての生徒が個人学習ノート記録、提出できた。	D
成果と課題	自らあるものを工夫しながら継続的に楽しんで学ぶことができるようになった。また、用具の準備や後片付けも含めて協力しながら学習に取り組み、互いに評価しあう場面も見られた。 しかし、一部の種目に偏る傾向がある。 個人学習ノートも効果的に活用できている。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	幅広い種目選択ができるよう工夫したい。また、個人学習ノートの活用も継続し、効果的な振り返りや客観的な自己評価につなげたい。	A

令和元年度（平成31年度） 芸術科（書道） 本荘高等学校定時制課程		
今年度の重点目標	1 ふでやペンの持ち方を身につけ、整った文字の書き方を身につける。 2 日常生活に用いられる実用的な書面を練習する。 3 表現を工夫し、書の創作を楽しむ。 <手立て> 1 基礎・基本を重視した反復練習により、正しい字の書き方を習得させる。 2 キャリア教育の一環として履歴書や礼状等の実用的な書面を扱う。 3 表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる課題・教材を用いる。	P
実施状況・達成状況	1 ふでペンを活用した毛筆での書き方の指導や硬筆での整った文字の書き方を指導した。 2 「生活の中の書」の教材を活用し、履歴書の書き方や手紙文の宛名書きなどを練習した。 3 楷書だけでなく、行書の古典名作作品を鑑賞し自身の作品制作に生かした。	D
成果と課題	1 半紙と筆、硯、墨など書道用具の準備を整えて毛筆での授業を充実させたい。 2 なぞり書きのワークシートを作成し、さまざまな実用な書面の書き方の基本を学ぶことができた。 3 よい作品を制作しようと何度も作品制作に挑戦する者と適当に走り書きのような作品を提出してしまう者が混在しているので、書道への興味関心を継続させる教材研究が必要である。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	○ 学校で準備する書道用具の充実。	A

令和元年度（平成31年度） 英語科 本荘高等学校校定時制課程			
今年度の重点目標	1 基礎・基本を身につけさせるための指導の工夫 2 音素認識スキルの向上から英文読解までを見通した教材づくり 3 生徒の実態をふまえたTT及びALTとの連携  <手立て> 1 マナトレや易しい言語活動を取り入れ、繰り返しを重視する。 2 文字と音を結びつけるために、フォニックスを使うなど導入を工夫し、英文読解につなげる。 3 ALTとの連携を密にし、生徒の理解度に応じて指導法を柔軟に変える。	P	
実施状況・達成状況	1 マナトレや自作教材を使用し、基礎・基本を繰り返し練習した。帯活動として授業の初めに会話表現を練習し、考査ごとにスピーキングテストを実施した。 2 文字を見て読み方を推測する練習を行った。語句を覚えたあと大意把握をする時間を設けた。 3 2年0校時の英語会話では、教材や指導法についてALTと頻繁に話し合い、生徒の実態に合わせた指導ができた。昨年度はなかったプレゼンテーションを実施することができた。	D	
成果と課題	1 基礎的事項の定着には個人差があり、一斉授業の中に個人指導の要素を取り入れているが、指導法については依然として試行錯誤が続いている。スピーキングテストにはほとんどの生徒が意欲的に取り組んで高得点をあげ、自信と達成感を持たせることができた。 2 文字だけを見て読み方を推測することで、文字と音声の関係を少しずつ理解している。一方で、文レベルの読解となると、もう一段階工夫が必要である。 3 0校時の英語会話は、ALTとの綿密な打ち合わせにより、生徒の実態に合わせた教材を準備し指導することができた。プレゼンテーションへの取り組みも、おおむね良好であった。	評価  B (A～Dで)	C
次年度への提言	○ 習熟度クラス編成について検討する。 ○ TTのありかた、T2の役割について検討する。 ○ 帯活動としての会話表現を継続する。	A	

令和元年度（平成31年度） 家庭科 本荘高等学校校定時制課程			
今年度の重点目標	1 学んだ知識および技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する。 2 授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。  <手立て> 1 主体性を引き出す教材の精選および指導法の工夫 2 身近な題材の設定	P	
実施状況・達成状況	1 制作等の実習を行う機会を多く設けることは難しいが、各種機器を活用して、体験的に学習内容を理解する機会を増やすことに取り組んだ。 2 座学と連携させた実験・実習を多く取り入れた。学習内容について、意見や考えをまとめたり、課題について発表したりする機会を多く設定した。	D	
成果と課題	2 授業時間等の使い方の工夫や学習内容を精選することに合わせて、学習する内容を横断的に扱うことなどで、授業の進度は概ね対応することができた。	評価  B (A～Dで)	C
次年度への提言	○ 学習に取り組みやすい環境整備を継続して行う。 ○ 学習内容を精選することに加えて、学ぶことの必要性や学校での活動が将来自分に役立つことなどを感じることができるよう授業や活動のあり方を考え、授業に取り入れたいと思う。	A	

令和元年度（平成31年度） 情報科 本荘高等学校校定時制課程		
今年度の重点目標	1 情報モラルと、セキュリティの意識を向上 2 情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技術の習得  <手立て> 1 ことあるごとに、情報モラル、セキュリティの内容を盛り込む。 2 ブラウザによる情報収集、ワープロソフト、表計算ソフトの基本操作とその活用、及び画像処理などマルチメディアの基礎的な学習をする。	P
実施状況・達成状況	1 折に触れ、スマートフォンの利用などの話をし、情報モラルやセキュリティの話をした。 2 ワープロソフト・画像を扱う基礎的な学習はできたが、表計算ソフトの学習はできなかった。 ※ 今年度は商業科で扱う予定のある表計算ソフトについての学習は行わずに、プログラミングの学習を行った。	D
成果と課題	1 情報モラルやセキュリティの話は、常に繰り返して指導しなければならない内容であると考えている。 2 ワープロソフトの中に、表や図形を入れたりした。図形などを扱うことも大切であると感じた。 ※ プログラミングには関心をもって取り組んでいた。	評価  C  B (A~D)
次年度への提言	○ 情報モラルやセキュリティの指導の継続  ○ ワープロソフト、画像の基本的な学習の継続  ○ プログラミング（的な考え方）を学習を行う	A

令和元年度（平成31年度） 商業科 本荘高等学校校定時制課程		
今年度の重点目標	1 幅広いコンピュータ操作や横断的な学習によるビジネスの基礎・基本等、実社会で役立つ知識と教養、技術を身につけさせる。 2 授業理解度やコンピュータ操作の習熟度に差を生まないよう、生徒同士で共同学習ができるような体制や環境を整える。 3 授業を通して、各種検定への動機付け・意識付けを行い、受験者数増加と合格率の向上を図る。  <手立て> 1 他教科と関連付けた授業や多種類のパソコンソフトを使った授業の展開、コンピュータ実習のある授業でのタイピング練習の毎時間実施。 2 教室・情報処理室の座席の工夫、モニターやプロジェクター、先生機の活用。 3 各種検定に対応した授業の実施、アルバイト代で検定を受検し、合格することでの成功体験をもとに積極性や自己肯定感の醸成。	P
実施状況・達成状況	1 毎時間のタイピング練習の実施。基本的なソフトウェアの使用による実社会で役に立つ知識や技術の体得。 2 プロジェクターや先生機の活用。座席の工夫による生徒が学びやすい環境の整備。 3 各種検定に対応した授業の実施。ビジネス文書、珠算・電卓、商業経済検定の実施。合計受験者数13名。合計合格率84.6%。	D
成果と課題	1 毎時間のタイピング練習により、授業を円滑に進めることができた。様々なソフトを活用し、幅広い知識や技術を体得させる事ができた。 2 互いに学び合える、座席の工夫がより必要だと感じた。 3 成功体験を重ねることでの自己肯定感の醸成や資格取得をすることでの進学、就職への意識付けをすることができた。	評価  C  B (A~D)
次年度への提言	○ 様々なソフトの活用や横断的な学習による授業の実施。実社会で役立つ知識や技術、教養の醸成。  ○ 授業理解度に差を生まないために、共同学習ができる環境の整備。  ○ 各種検定に対応した授業の実施。検定試験の継続。検定への動機付け、意識付けを図る。受験者数と合格者数の増加。	A